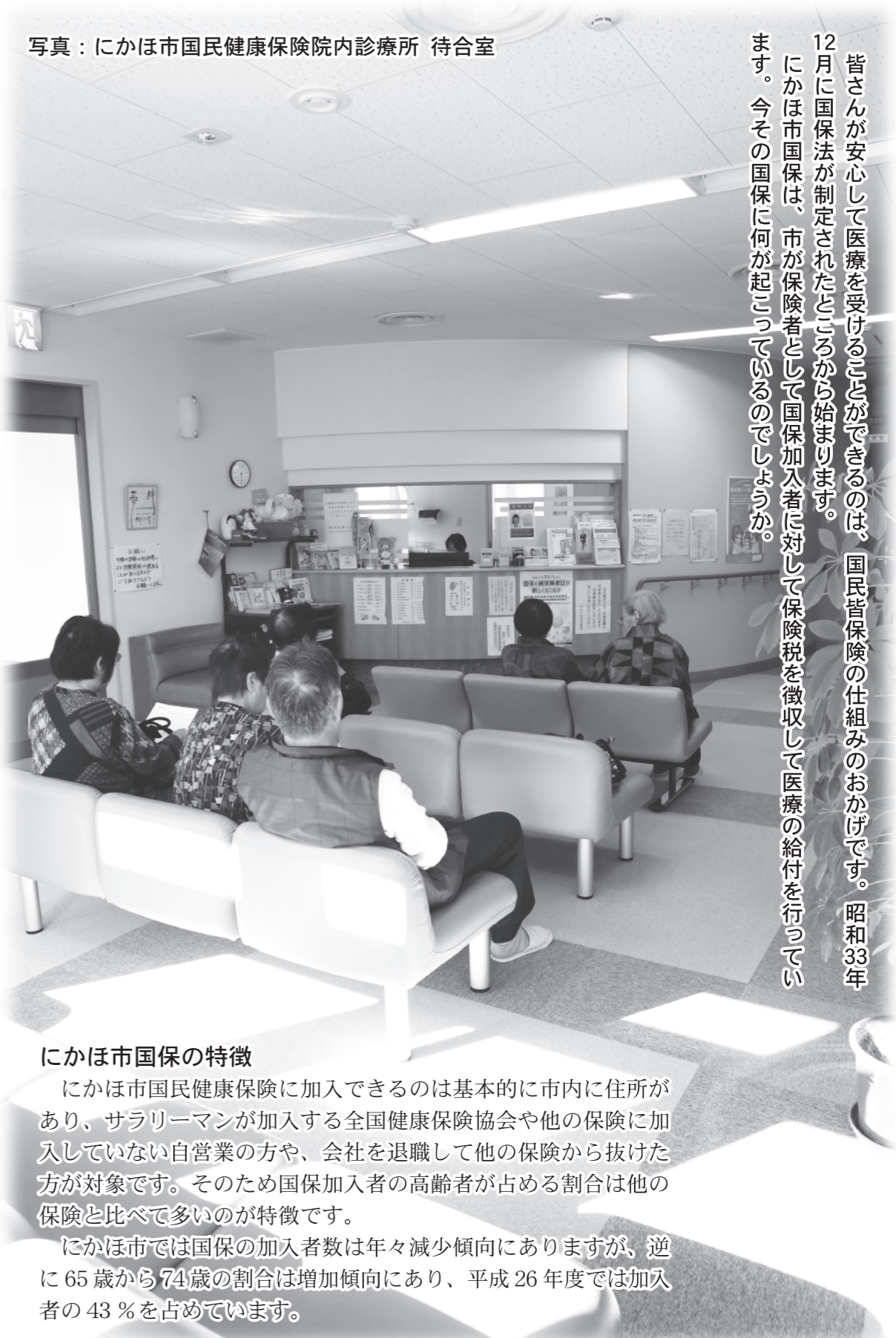


にかほ市国民健康保険の現状について

皆さんが安心して医療を受けることができるのは、国民皆保険の仕組みのおかげです。昭和33年12月に国保法が制定されたところから始まります。にかほ市国保は、市が保険者として国保加入者に対して保険税を徴収して医療の給付を行っています。今その国保に何が起きているのでしょうか。



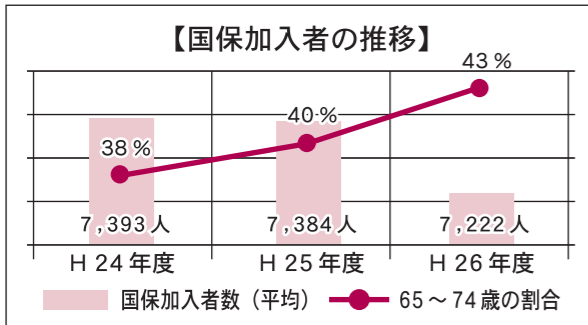
写真：にかほ市国民健康保険院内診療所 待合室

医療費の推移と特徴

医療の進歩に伴い、今までは治療できなかった病気も治療を受けることができるようになってきています。それと同時に医療費も年々増大しています。

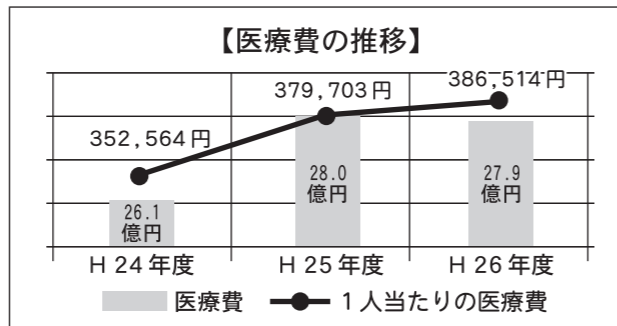
平成24年度に医療費として支払われた額は26億1千万円、25年度は28億円、26年度は27億9千万円となっています。加入者1人当たりの医療費では24年度は35万3千円でしたが、26年度は38万7千円と実に3万4千円の増加となっています。また、65歳から74歳までの方の医療費は26年度では51万4千円と64歳以下の約2倍近い状況となっています。受診率、1人あたりの医療費は県平均を上回っています。しかし、1件当たりの医療費は県平均を下回っています。

このことから、「通院の件数は多いが、1件に係る医療費はそんなに高くない患者さんが多い」という傾向が見取れます。医療が身近で受けられる、という点ではたいへん恵まれています。また、医療費増加に悩む国保財政からみれば、非常に深刻な問題です。



医療費増加の要因として、加入者の高齢化もあげられます。国保加入者全体の数は年々減少していますが、加入者のうち65～74歳の方が占める割合は年々増加しています。

	H 24年度	H 25年度	H 26年度
全体	35.3万円	38.0万円	38.7万円
内64歳以下	26.6万円	28.3万円	29.0万円
内65～74歳	49.0万円	52.5万円	51.4万円

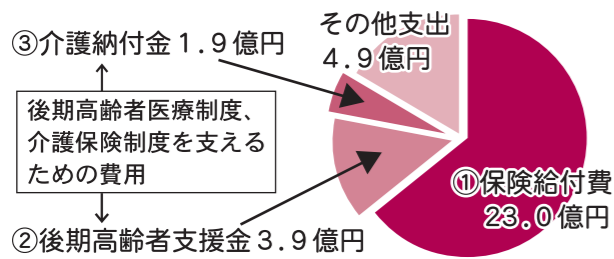


高齢者を支える費用の増大

国保の歳出は、医療費給付だけではありません。後期高齢者支援金を後期高齢者医療制度へ、介護納付金を介護保険制度へ、それぞれを支えるために支出しています。その額はどちらも年々増え続けています。平成24年度後期高齢者支援金は3億5千万円でしたが26年度は3億9千万円となり、介護納付金も24年度と比べて1千5百万円も増加しています。

高齢化社会が続くなか、これらの経費は今後も増加していくことが見込まれます。

【歳出計 33.7億円 (前年比+0.6億円)】



国保の歳出は、①保険給付費（医療費の支払い）、②後期高齢者支援金、③介護納付金の3経費で歳出全体の約86%を占めています。



	H 24年度	H 25年度	H 26年度
後期高齢者支援金	3.56億円	3.62億円	3.92億円
前年度比	+5.12%	+1.58%	+8.24%
介護納付金	1.75億円	1.79億円	1.90億円
前年度比	+6.14%	+2.56%	+5.59%

にかほ市国保の特徴

にかほ市国民健康保険に加入できるのは基本的に市内に住所があり、サラリーマンが加入する全国健康保険協会や他の保険に加入していない自営業の方や、会社を退職して他の保険から抜けた方が対象です。そのため国保加入者の高齢者が占める割合は他の保険と比べて多いのが特徴です。

にかほ市では国保の加入者数は年々減少傾向にありますが、逆に65歳から74歳の割合は増加傾向にあり、平成26年度では加入者の43%を占めています。